



地理（ほんとは地理学なんですけど）というところも一般の人には、地層を見たり、各県の特産物を調べたり、上手に地図を描いたり、拳げ句には世界の首都を覚えたりすることだと思われているふしがあるようです。たしかに、それが地理学と無関係だとは言いませんが（それでも首都の暗記を仕事にしている地理学者はいません）、実際の地理学には、地表・空間を広範に扱う学問として、実

にさまざまな研究分野があって、とくに近年の地理学の中には、知らない人だと「これでも地理学なのか？」と驚くような分野がいくつも存在します。

私が行っている「地理的イメージ」に関する研究もそういう一つかもしれない。

地理的イメージの研究

倉「例えば「銀座」や「鎌倉」や「スイス」という地名を聞いたときに、それぞれに何か思い浮かぶものがあると思いますが、それが地理的イメージです。しかも、それはおそらく「北千住」や「川崎」や「パンゲラデシユ」について思った

ときの内容とは違っているのではありませんか？ 実際、我々は日常生活の中で気付かぬ間に、ある場所に對してある決まったイメージを持つようになっているので、「吉野」は昔も今も桜の名所であり、「田園調布」と名が付くだけでマン

ションの値段が上がり、西陣「織りといえば有り難がられ、演歌の主人公はいつも「北」へ向かい、山陰の「小京都」に観光客が集まる、などといった色々な現象が起こるわけです。その流れです。

資料として特定の場所に対する人間の認識やイメージを明らかにしたり、ある場所を一つのテキストとして解釈・解読していくなど、文学と地理学との学際的な部分を扱った研究があります。

興味のある方は、杉浦芳夫編『文学人地域・越境する地理学』古今書院（一九九五）をご覧ください。

【略歴】うちだ・よりふみ 文学部助教授。専門は地理学。担当科目は歴史地理学、外国地誌、日本地誌。研究テーマは地理的イメージ、文化地理学など。近著論文に「比喩的認識と場所的イメージ」など。41歳。